



きよさとっ子

清里小学校で続けていきたいこと、もの

校長 遠藤 哲也

10月初めの複数学年の学年閉鎖により、子どもたち並びに保護者の皆様にご心配をおかけするとともに、行事や授業等の急な変更にご対応いただき、感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の感染力の強さを痛感するとともに、今後も続く感染症への対策を、改めて全校でしっかり取り組んでいきたいと考えます。ご家庭におかれましても、引き続きお子さんの健康観察及び手洗い等のご協力をお願いします。

さて、10月4日（金）に、なかよし遠足を実施しました。雨の予報が続いていたため、校内オリエンテーリングを行うこととなりました。全校が10の縦割り班に分かれ、グループ内のメンバーで相談しながら各教室等のお題に挑戦していきます。その中の一つに、次のお題がありました。

<創立20周年特別お題>

清里小学校で、これからも続けていきたいこと、もの(活動や行事等もよい)は、何ですか。

【1位】学校田の稲文字活動

【2位】全校の仲が良いこと・みんなで楽しく活動

【3位】あいさつ・あいさつ運動

(その他) かがやきフェスタ・なかよし遠足・朝市・勉強・命の「い」・遊び・ヤギ等



このお題は、相談をせずに2～3分程度で個人で一つ考えて、一斉に声に出して答えてもらったものです。いわば、これまでの経験と直感で答えたものです。特に今回第2位にあげられた「全校の仲が良いこと」に、清里小学校の創立以来20年分の歴史が、着実に実を結んでいることを感じました。「誰もが」「安心して」学ぶことのできる学校であることを感じているからこそ、出てきた答えなのではないでしょうか。そして、いつまでもこの姿を続けていきたい・残していきたいと願う子どもたちの清らかな心に、感動を覚えずにはいられませんでした。

この清らかな心を清里小学校の「SHIN(芯)」としてつないでいくことは、私たちの使命です。

創立20周年記念 清里小学校の歴史④ ～マラソン大会の思い出～

1年生から5年生まで、ずっと2番で、1位をとれなかったので、放課後などに友達とコースを走って、頑張って練習した思い出があります。

(当時は)グラウンドを半周した後、体育館後ろを通って、駐車場出口から左に曲がり、武士の奥の入口まで行って戻ってくるコースでした。3kmを超えるコースを全員で走りました。途中、「負けないぞ」という気持ちもあれば、苦しくなって「今回くらいはいいかな」という気持ちが交互にやってきました。1位の子に迫ってきているときは、「追いつきたい」という気持ちもわいてきたし、後ろから迫ってくる人がいるときは「もっと速く走らないと」と考えて走っていました。

2024.9.13 平成28年度第12回卒業生へのインタビューより



この頃は、縦割り班の高学年グループで、学校周りのゴミ拾いなどのボランティア活動も盛んに行っていたそうです。



9月後半から10月前半のトピック



9/19～20 自然教室

4, 5年生が妙高青少年自然の家に一泊して、秘密基地づくり、キャンプファイヤー、妙高アドベンチャーと、自然や仲間と存分に関わりました。



9/27 さくらちゃん健康診断

上越家畜診療所の丸山獣医さんによるヤギの健康診断。元気という診断に喜び、聴診器による心音に感動した1年生。命の大切さを学んでいます。



9/25 防災学習

「自然災害に備えるまちづくり」の学びを深めるため、4年生が総合事務所を訪問。説明や体験を通して、地域の一員としてできることを考えました。



9/30 陸上大会

6年生が、体育学習の成果を発揮して他校の6年生と競い合いました。全力で臨む姿や、頑張る仲間をサポートする姿がとても爽やかで立派でした。



9/30 栗拾い

学校近くの堀川さんの土地で栗拾いを楽しんだ2年生。イガから栗を出す方法を教えてもらい、たくさんの栗と秋の学びを持ち帰りました。



10/4 なかよし遠足

校内オリエンテーリングに変更して実施したなか、縦割り班で助け合い、企画した全校ゲームで盛り上がる清里っ子。温かな姿に感動した一日でした。



第2回学校運営協議会 人権を考える講話会

10月1日(火)の午後から、学校運営協議会を開催しました。子どもたちが熱心に学ぶ様子を参観していただいたあと、協議会を行いました。各委員から、下記のような助言や提案もあり、有意義な熟議の機会となりました。熟議の内容を教育活動の改善・発展につなげるとともに、丁寧な情報発信に一層努めたいと思います。

◆ふるさと学習では、清里らしさのあるテーマで取り組んでいる。教室を飛び出して学び、子どもたちがふるさとのよさを実感していることを感じた。引き続き、様々なテーマで続けてほしい。

◆「きよさと夢ファイル」を活用して夢や目標を親子で語る機会を具体的に設けたり、生活習慣と心や体のつながりを学級や家庭で考えたりと、場の設定や学校による情報発信を分かりやすく工夫していくとよい。

引き続き行った「人権を考える講話会」は、上越市教育委員会社会教育課の野崎真二先生を講師に迎え、「自分も相手も大切に～差別やいじめのない社会を目指して～」をテーマに実施し、様々な人権問題や大人の役割について、資料や動画を交えて具体的に説明していただきました。参観者からは、「自分の『無意識の差別』に向き合うよい機会となった」「大人の正しい姿が、子どもの人権意識を育てることを確認できた」など、今回の講話が、今後の学校や地域での生活に生かす機会になったことがうかがえる感想が多数見られました。学校では、子どもたちが、いじめや差別に無関心にならず、自分のこととして関わる心、立ち向かうことのできる心を育てていけるよう、教育活動をしっかりと進めてまいります。



HP
随時更新中

